



紫苑

おん

Contents

- 02 第28回総会
- 03 学長ご挨拶「外部の評価を受けて思うこと」
葡萄祭
- 04 復興を願って
- 06 しなやかに生きる
- 07 恩師メール
- 08 てづかやまっぷ
- 11 ふたたび大学で・ミニ同窓会
- 12 HOPEさん
東京同窓会報告・同窓会室だより
- 14 Information
- 15 お知らせ下さい
- 16 ご案内

しなやかに生きる

81A 土田 あやか

(18)

大学時代

大学時代を振り返ると、楽しかったことが一つひとつ思い出されてきます。

美学史の杉山先生は本を胸に抱きながら、ゆっくり、ゆっくりと廊下を歩いて来られ、少し遅れ気味で講義が始まります。教室に朗々と響く先生の声を今でも懐かしく思い出します。学んだことは、海外の美術博物館・歴史的建築物をめぐる時に知識とし役立ち、今でもとても楽しませていただいています。

また当時私は、他大学のオーケストラでヴィオラを演奏していましたが、三浦先生とクラシック音楽についての雑談中、「ヴィオラとは〇〇な音がしますね。」とおっしゃったことがありました。少し子供であった私はショックだったのですが、改めて聴き直すと不思議なもので、そのように聞こえてきます。そのうちヴィオラの中間音のセクシーさが気に入りましたが、三浦先生覚えてらっしゃいますか？

大学紹介のアルバイトでは、奈良まで考古学の発掘に行ったことはとても楽しく勉強になり、機会があればぜひもう一度してみたい事からの一つです。

その他、当時は大学の周りにはまだ自然が多く残っており、季節の美しい移ろいを感じ出します。竹林にタヌキの親子が住んでいたこと、グラウンドの緑の芝生が畝つて盛り上がっているのはモグラの仕業と知ったこと、野鳥がきれいな声で囀っていたこと、春になると坂道に沿って桜が綺麗に咲いたこと、大学から駅までの道筋には多くの水田があり、空の青さを写し風に揺れる水面や、稲がキラキラとなびいていたこと。そして、友人たちとのたわいなしな会話……、その時代の風景、色、音、香りが楽しかった事とし鮮やかに思い出されてきます。中学・高校までの狭い環境・人間関係とは違い、自分で選択し学ぶ事、学ぶことでだんだんと広い世界へ目を向ける事ができた喜びは、私から心のストレス

を取り除き、久しぶりに大きく深呼吸が出来たように思えます。とても良い経験をさせていただきました。

カルチャーショック

大学卒業後、兵庫県立近代美術館に勤めたのですが、なんとカルチャーショックの連続でした。美術館へは、現代作家の方もよく来られていました。クリエティブな仕事をしている人達、またアーティストに接している人達の物の見方・考え方は狭い常識に因わず、世界観は広く成熟した大人である半面、子供のように自由な行動は予測できないことも多く、人生でこんなにもはちゃめちゃで面白い人達と出会えたことは宝であり、その後の私に非常に大きな影響を与えました。近代美術館に勤務中に私に付いたあだ名は、「お嬢」。たしかに四角四面で常識ばかりにとらわれていたその頃の私はいい意味でも悪い意味でもお嬢様だったと思います。勤め先が大阪市立東洋陶磁美術館へ変わったことで、近代美術から離れ東洋陶磁という静の文化の影響を受けます。緊張感ある完璧さを求める中国陶磁器の美意識、歪な美しさと安らぎを感じる朝鮮陶磁器など、アジアの歴史や美学の奥の深さに面白さや感動を持ち、改めてアジアの美の素晴らしさを心にきざみました。

仕事の転換

その後、インテリアコーディネーターの資格を取り、住友林業㈱へ入社。10年間で約10000件の物件を担当。がむしゃらに働き目の前の仕事をこなしていくことに追われた日々でしたが、売上も目標としていた全国1位をとれたことで、生活をスローライフに戻したいと思いました。

2007年には株式会社ライフクリエイティブを立ち上げ、ライフクリエイターとし暮らしを豊か

にするための企画提案活動をする傍ら、大阪と東京でテーブルコーディネーターのスクールを開校しました。

ライフクリエイターの仕事

今している仕事内容は多岐にわたりますが、短く言えば「空間環境を整える」ということでしょうか。人は環境に非常に左右されネガティブにもポジティブにもなります。心地よい空間や美しいしつらいは、人の五感を刺激し心に響かせ、豊かな瞬間(ひととき)・楽しい会話や精神的に満たされた暮らしを与えてくれます。感受性やコミュニケーション能力も高め、感性豊かな人間を作り出します。特に子供の健康的な成長や教育には必要なこと事です。これらはなおざりにされがちですが、心身ともに健全な人間を形成するにあたり、実は直接健康面・精神面に深く関わっているのです。

具体的な活動としては日本の伝統文化「誇るべき和の文化」を、現代になじむ空間スタイルに変化させ、インテリア・テーブル・カラーコーディネーター、ディスプレイ、パーティーなどの企画提案、スクール、セミナー、研修等の活動を行なっています。いくつかご紹介したいと思います。

今年6月にハイアットトリジェンシー京都にて、京和菓子司「未富」社長 山口富蔵氏をお呼びし、「夏越しの祓え」のセミナー&トークショー・ハイティーパーティーを開催いたしました。山口富蔵氏は同志社大学・京都精華大学など多くの大学にて講師も勤められ、NHKテレビ「プロフェッショナル仕事の流儀」婦人百科(茶の湯)、「テレビ東京ソロモン流」など多くのテレビ出演のほか、新聞、雑誌などで、京菓子の紹介に努められています。菓子の伝統や魅力を今に伝える日本を代表する御菓子司でいらっしやいます。山口氏には京都の風土から生まれた美しい菓子、「見立て」という遊び心のある美の世界、豊かな暮らし方についてお話いただきました。ハイアット

リージェンシーの会場は、ガーデンルームという6月の美しい庭の見える会場で、庭をバックに京都らしい織地や食器、京和菓子の並ぶ美しいテーブルコーディネートを表示、パーティーの間には雅楽の演奏もご用意しておもてなしました。美しい物、美味しい物、楽しいお話はご来場下さいましたお客様、心を満たし、ご満足いただけたことと思います。

誇るべき日本人の精神性や文化を、わかりやすく伝えるためには、家庭の食卓での教育が非常に大切です。例えば日本の文化史の歳時記をしつらえやテーブルに表現し子供たちにわかりやすく伝える。旬の物をいただく。食事の作法食器の基本的な並べ方、お箸の持ち方、使い方も小さい時から教える。基本作法を身につけるうちに、日本人としての精神性や伝えるべき文化を自然に学んでいきます。食卓での会話も重要です。家族が親が子供の話をよく聞く、質問をする、きちんと答える、このことがコミュニケーション能力を高めて行きます。コミュニケーションで一番元となる最小の単位は「家族」であることを忘れてはいけません。これらの事を若いお母さん方や子供達に食卓教育のレッスンとし色々な形でなっています。

また国際社交学へも目を向け、プロトコールのレッスンも行なっています。プロトコールとは国際儀礼を指す言葉です。日本では外交儀礼に関わるものであると先入観がありますが、特別な肩書きの人達だけのものではなく、異文化のコミュニケーションにおいても国際規格というべきマナーです。国内でも国際化が進み、多くの外国の方々や接する機会が多くなりました。日本人の作法は時として海外の方には非常識なことと映る場合があります。反対に海外の方々のされる事が非常識に思えることもあると思います。文化習慣の異なる国の方々と心地よく豊かな時間と空間を楽しむためにインターナショナルマナーが今必要とされています。



恩師メール

本学に在任中、ご退任の先生お一人ずつに登場していただきます。

フリーは不利じゃない

リベラルアーツ学部 元教授 三浦 信一郎先生

今春、帝塚山学院大学を定年退職してフリーになりました。非常勤講師時代を含めると36年の長きにわたって在職したことになります。この間、大半の期間を文学部美学美術史学科で過ごしました。教員仲間のよき先輩や後輩に恵まれましたし、何より素晴らしい学生たちが私の教師生活を彩ってくれました。この学科は、美や芸術関連の専門学科として希少価値を持ち、評価の高い学科として、関西のみならず全国的にその存在が認知されていたので、大いに仕事のし甲斐がありました。お世話になった方々に退職通知の葉書をお出したところ、たくさんの方からご親切な慰労のお返事をいただきました。その中に、「フリーは不利じゃない」というダジャレで定年後の生活を激励して下さった方があります。私にはまだまだ知りたいこと、体験してみたいことがいっぱいあります。フリーの立場を有利に生かして、もっともっと色んなことにチャレンジしてみたいと思っています。



私の近況

人間科学部 教授 西川 隆蔵先生



平成10年に狭山キャンパスから泉ヶ丘キャンパスに移動してから12年が過ぎた。あっという間であった。平成15年に大学院が設置され、大学院兼任の教員として、その間、学部組織やカリキュラム編成の仕事

にも携わらせていただいた。また昨年は大学が日本高等教育評価機構の認証評価を受審した年で、その準備責任者として副学長に任ぜられ、仕事をさせていただきました。ずいぶんタイトな生活ではあったが、学院本部、学長をはじめ全学あげての協力体制の下、評価機構から大学適格の認証をいただくことが出来た。今は少し時間的にもゆとりが出来て、ほっとしているところであるが、それでも、月曜日は病院での心理臨床の仕事、火曜日から金曜までは、大学学部と大学院での授業と業務に追われる毎日である。また年齢を重ねるにつれ、学外での依頼仕事も増えてきて、キャンパスのある大阪狭山市や堺市から仕事を委嘱されて少なくとも月に2-3度は出かけなければならないし、非常勤で他大学に出講していることもあり、小忙しく動き回る生活は当分続くように思う。

東日本大震災によせて

3月11日に東日本大震災が起こりました。ちょうど、大きな画面のTVを買ったところでした。リアルタイムに大画面に映し出される自然の破壊力の驚異、津波の恐ろしさ、崩れた家が濁流となり全てを巻き込み破壊していく映像に、早く早く逃げると叫び心が痛くなりました。震災の被害だけでも大きな傷であるのに、原発の恐怖がおおいかぶさりダブル災害です。何か背負い込んだような、胸に常に重たいものがあるように感じ心が塞ぎこんでしまいました。そのような時、被災された方々の前向きな姿に心打たれます。復興へ向け被災していない者が出来ることは、もう共感し一緒に塞ぎ込むことではなく一人一人が日本の経済を支えている気持ちになり、とにかく普通の生活に戻ることに。自粛ムードの中迷いましたが、私に今出来ることはソフト面からの応援。4月2日から東京日本橋での作品展を予定通りに開催することになりました。街行く人の気持ちが少しでも明るくなることを願い、ウインドウごしに春空へ飛び立つ青い蝶々をイメージしたテーブルコーディネート飾りましました。東京では節電のため照明が落とされており、街全体に暗く、ウインドウショッピングも楽しめません。うつ向きながら足早に歩いている人達が、足

を止め視線を上げ、顔が和やかになるのを見て開催し良かったと思います。人は環境に非常に影響されます。私の仕事は心地よい環境空間を作ること、また視覚的に心地よさを表現し見る人の心を豊かにすることです。今後多くの人に影響を与えられたいと考えています。大学時代に西洋美術・美学を学び、卒業後は近代美術、東洋美術と触れ、その後インテリアコーディネーターとなり今はライフクリエイターです。大学で学んだ事が、その後のすべてに繋がっている。30年を振り返ると面白い経験をしてきたと思います。



葵祭(ハイアットリージェンシー京都 京の歳時記パーティー)



プロフィール

帝塚山学院大学・美学美術史学科卒業。兵庫県立近代美術館、大阪市立東洋陶磁美術館勤務。その後、住友林業(株)にインテリアコーディネーターとして10年間勤務。(株)エコー丸山洋子テーブルクリエーションのチーフコーディネーターを勤め、2007年株式会社ライフクリエイティブを設立。

大阪(心斎橋校)・東京(日本橋校)にスクール開校。(テーブルコーディネート/プロトコールエチケット)

問合せ先
携帯 090-3949-6645 メール info@lc-hibiki.com
ホームページ <http://www.lc-hibiki.com>



重陽の節句(住宅展示場セミナー)